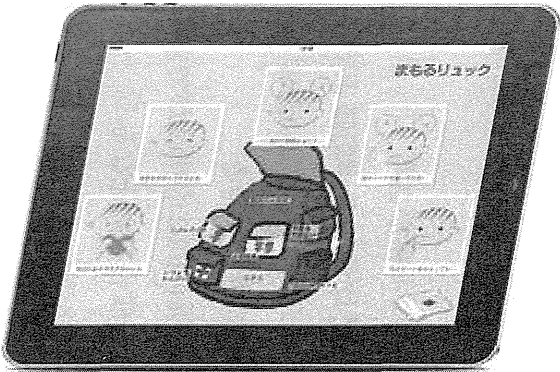


My Ready to Go Backpack



This application will be a good tool for this education and empower children with autism spectrum disorders and their families.

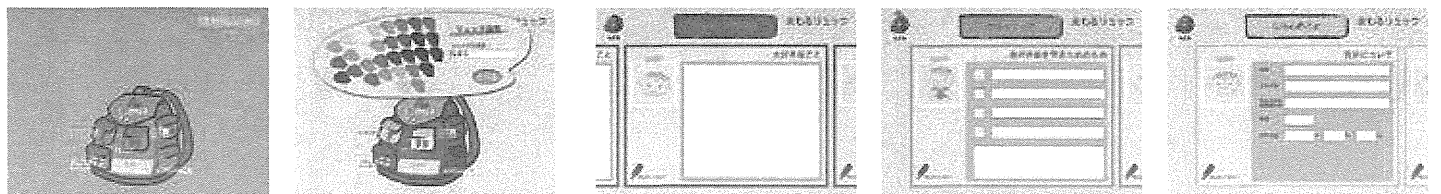
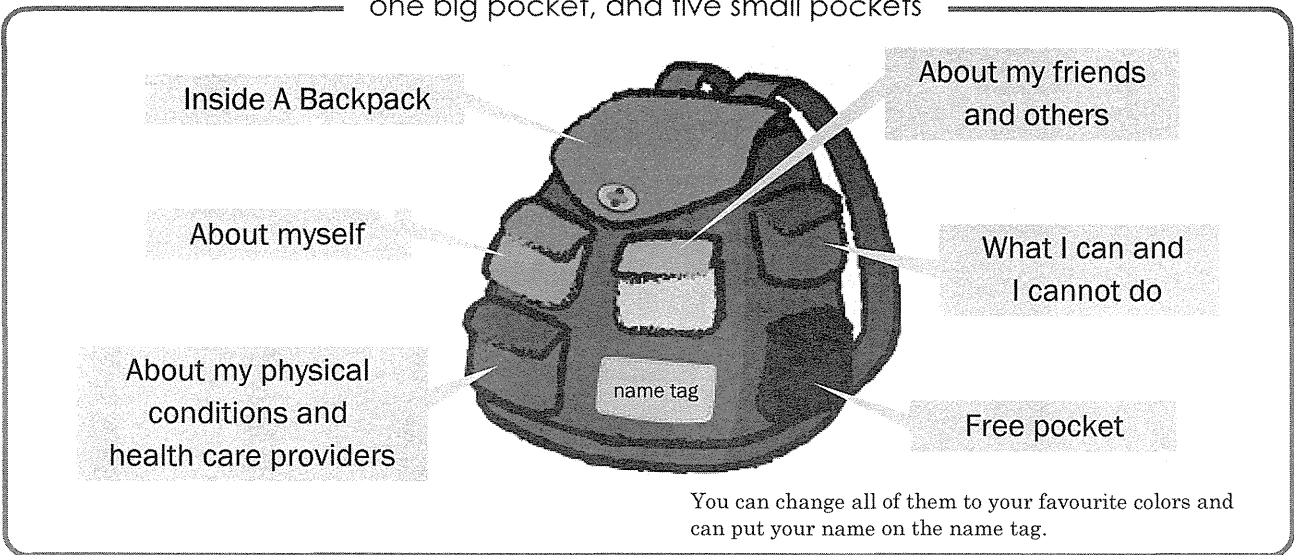
The past disaster preparedness education provided one-sided general knowledge of what would happen and what we need in shelters.

However, it would be necessary to start these education from realizing who each person is and sharing it with others.

This backpack is designed especially for children with ASD and their families. It will help them prepare the disaster actively and individually, and provide them necessary knowledge in times of disasters.

"My Ready to Go Backpack" has a name tag, one big pocket, and five small pockets. You can change all of them to your favourite colors and can put your name on the name tag. When you touch the pockets, five cards will appear. If you touch the card, you can write down your data. You also can write or rewrite, and save your own data on each card. You can see your own history, too. You can also take pictures and put them on the icons of each card. So it will become easy for you to understand what kind of card it is.

one big pocket, and five small pockets



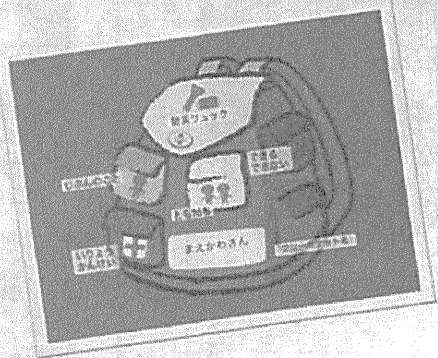
Author: Asami Maekawa (Tokyo Woman's Christian University)

Design and Application Development: Takeshi Ogasawara, Mari Tsubonuma, Azuma Kawaguchi (Joshi University of Art & Design)

Special thanks: Yayoi Kitamura (National rehabilitation Center for Persons with Disabilities; Research Project supported by Health Labor Sciences Research Grant)

Contact : WASA(Welfare and Art Support Association) <http://www.wasa.or.jp/>

iPad版防災アプリ まもるリュック 解説書



前川あさ美 (東京女子大学)

小笠原たけし・坪沼まり・川口吾妻 (女子美術大学)

厚生労働省科学研究費補助金事業

防災アプリとは

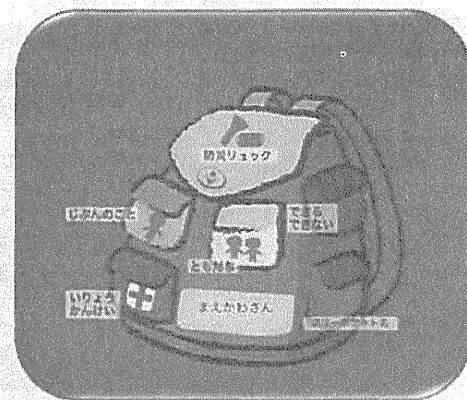
- ◆ 家庭や学校で使えるiPadを利用した防災用のアプリを開発しました。
- ◆ これは、「自分をまもるカード」(前川2011)をもとに、女子美術大学の小笠原・坪沼・川口によって作成されました。
- ◆ 防災教育というと、これまで、大人から子どもに、一方的に提供されることが多かったので、子どもはどうしても受動的になってしまいました。また、防災の内容も「こういうものを準備すればいい」という一般的なものとなっていることが多かったと思います。
- ◆ しかし、防災教育とは、本来、「自分を知る」ということから始まるものです。そして、「自分を知ってもらおう」ということも防災教育の中で必要な体験となります。
- ◆ この防災アプリは、防災教育を個別の発見や気づきといった能動的な体験とむすびつけ、そうした体験を他者と共有するという機会を提供し、多様なニーズをもったひとりひとりに即した防災意識を高めることを助けてくれます。
- ◆ なぜでしょうか？ それはこのアプリがもっている特徴によります。それらは…
 - 興味や関心をもてる絵がある
 - 自分で好きなように色や内容を修正できる
 - 自分について考えたり、気付いたりすることができる
 - 他者とその情報を共有できる
 - 災害を予想して具体的な心構えができる
 - 自分についての成長記録となる

自分をまもるリュックとは

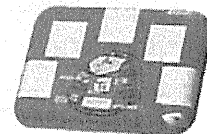
- ◆ このリュックは、発達障がいの子どもたちを特に対象として、防災に関心をもってもらったり、防災や震災時に必要な知識を身につけたりできるような工夫がなされています。
- ◆ 防災や震災時に必要な情報の種類や物資の特性が、タッチをすることで具体的にできます。種類や特性はひとりひとり異なるため、それぞれがカードのタイトルを見ながら子ども(自分)はどうかということを考える機会になったり、家族や教員らと一緒に、何が防災に必要なかを考えたりすることができます。
- ◆ 「自分をまもるリュック」には 中に物を入れる上の入り口の他に5つのポケットがついています。リュックの背景をふくめリュックの色、ポケットの色は、すべて自分の好きな色に変えられます。また、リュックのポケットに名前を書くことができます。
- ◆ リュックの上ふたや5つのポケットをタッチすると5つのカードが出てきます。カードをタッチすると、一枚ずつ自分の情報をかきこめます。修正もできます。変更内容を保存できるので、履歴を残せます。
- ◆ ポケットから出てくるカードの枚数は増やすこともでき、それらカードに自分にとって必要な名前をつけることができます。
- ◆ カードのアイコンイメージは、好きな写真や文字、ネットからとってきたイラストをいれることもできます。

操作の基本①

- ◆ ポケットの部分をタッチすると、いくつかのカードが出てきます。カードの枚数は自分で増やすこともできます。

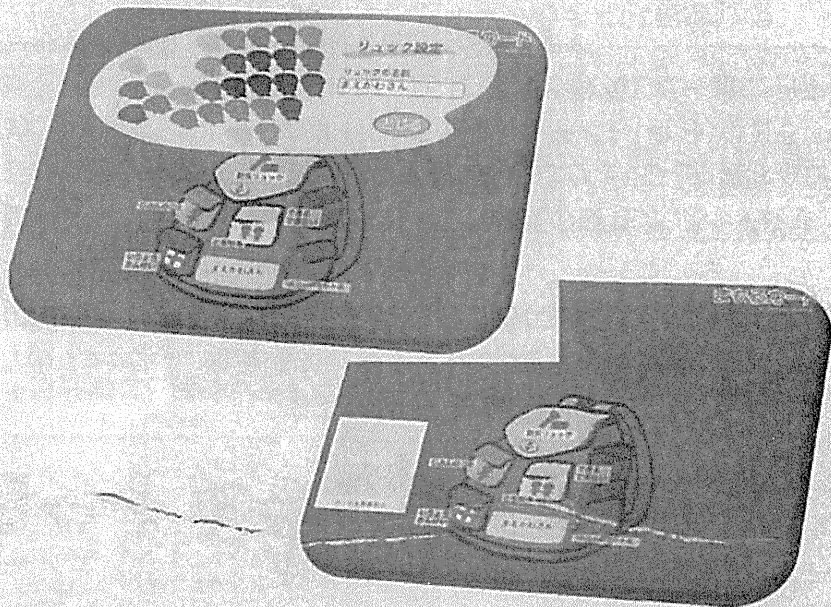


- ◆ 各カードをタッチすると、具体的に記入できるようになっています。左上の小さな四角は、アイコン用で、自分で好きな写真やイラストをいれることができます。
- ◆ 右の大きな四角の中に記入するには「きにゅう・へんこう」をタッチします。小見出しの口のあとに記入し、記入が終わったら、「ほぞん」の「する ○」を二回タッチすると保存されます。
- ◆ カードが出てきた画面でスクロールしても、そのポケットの中に入っているすべてのカードをみることができます。最後のカードの「新規」をタッチすると自分用の新しいカードを増やすこともできますし、5枚のカードが出ている状態で、右下のカードの山をタッチしてカードを増やすこともできます。
- ◆ 「もどる」をタッチして、それぞれのポケットや「防災リュック」の部分をタッチするとすべてのカードがしまわれます。



操作の基本②

- ◆ 防災リュックの色や背景の色は自分の好きな色に変えられます。色を変えたい場合、その部分を長押しすれば、パレットが出てきて、色を選べるのです。
- ◆ リュックには5つのポケットがついていますが、5つめのポケットは、自分の好きな名前をつけられます。たとえば、重要な情報や家族との約束事、忘れないでおきたいことなどをファイルしておくこともできます。
- ◆ カードへの記入はローマ字入力でも、ひらがな入力も可能です。修正する場合には、長押しをするとカーソルがでできます。



防災リュック (上のふた)

をタッチすると…

- ◆ 「防災リュック」をタッチすると、中に入れるといいものが以下のように5つのカードで示されます。また、自分でカードを増やすこともできます。ただ、たくさん入れすぎると重くて運びにくくなるので注意しましょう。頭の中で「3日間」と考えて、入れていきましょう。

□自分の命を守るためのもの

例: マスク、ウェットティッシュ、体を温めるホットアイロ、自分の好きなペットボトル1本、好きなお菓子ちょっと、普段使ってる薬など

□気持ちが安心できるためのもの

例: 使ったことのあるイヤーマフやイヤホン、普段使っているのと同じ手ざわりのタオル、好きなおもちゃの写真や図鑑など

□一人で室内で時間を過ごすためのもの

例: よくやるパズル、トランプやウノ、その他電源がなくても楽しめるもの、読み終わった本や辞書、紙と色鉛筆、カメラなど

□屋外で時間を過ごすためのもの

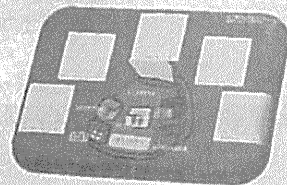
例: なわとび 膨らませるタイプのボールなど

□自分のことをわかってもらうもの

例: サポートカード(自分を守るカードなど)、人とコミュニケーションするための絵や写真のカード、メッセージカード(例えば、「いまは一人です」と書いた紙)など

□その他あるといいもの

例: 懐中電灯、ラジオ、電池の予備、ろうそくとライター、帽子、下着など



- ◆ 「もどる」をタッチして「防災リュック」をタッチするとすべてのカードがしまわれます。

じぶんのこと

をタッチすると…

- ◆ 「自分のこと」をタッチすると、「自分について」「家族について」「通っている園・学校など」「緊急時の連絡先」「緊急避難場所」のカードがでできます。携帯番号や地図などを写真にとって保存しておきましょう。

いりょうかんけい（医療関係）

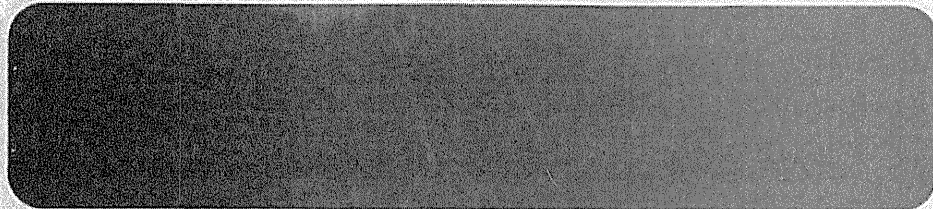
をタッチすると…

- ◆ 「いりょうかんけい」をタッチすると、「自分の名前」「保険証番号」「手帳番号」「アレルギー・その他既往歴」「常備薬」「よく行く病院と主治医」のカードがでできます。

ともだち

をタッチすると…

- ◆ ともだちだけでなく、知り合いなどの名前や連絡先などの情報をいれておきます。アイコンには写真や、友だちの好きなイラストなどを入れておくことができます。



- ◆ 「できる・できない」をタッチすると、「パニックになったとき」「お願いしたいこと」「得意なこと」「苦手なこと」「大好きなこと」「特にわかっておいてほしいこと」などのカードがでできます。「特にわかっておいてほしいこと」のあとには、すでに用意された項目があり、それをチェックすることで他者と理解を共有できるようになっています。
- ◆ どうしても、障がいをもっていると、「できないこと」を強調されがちですが、「できること」に自分でも気づいておくこと、そして、それを他者と共有できることが、災害時に、大事な力となることがあります。

フリーポケット

をタッチすると…

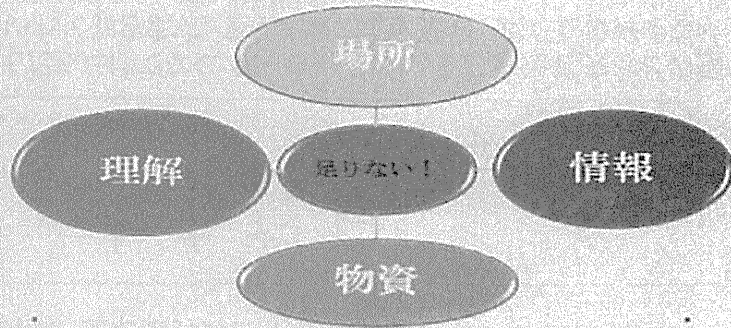
- ◆ 自由に名称をつけて、自分だけのポケットにすることができます。

いくつかの資料①

災害時の心構え

アプリに添付されている資料です

災害時、いろいろな「不足」が生じる！



避難所の問題

- ・ 避難障がいを抱える子どもが避難所で迷惑をかけてしまい、申し訳ない気持ちでした
- ・ 避難所には自分たち家族がいられる場所がなかった
- ・ うちの子どもは避難所では安心して過ごせなかった
- ・ 被災による学校の統廃合によって、学校が、いままでのように安心できる場ではなくなってしまった。

情報の問題

- ・ 災害に関する最新の情報や新しい情報が得にくい
- ・ 災害時の避難障がいを抱える子どもに関する情報を得ることができずに困った
- ・ 何が信頼できる情報がわからなかった
- ・ テレビから流れる情報が、子どもを不安にさせるのではないかと心配だった

物資の問題

- ・ 子どもに必要な物資を手に入れられなかった
- ・ 物資を得るのに何時間も並ばなければならなかった
- ・ 子どもに好き嫌いがあるため、配給された食べ物が食べられずに困った
- ・ 子どもにこだわりがあるため、通常の支援物資では満足しないことが多かった

理解の問題

- ・ 避難障がいをかかえる子どもについての理解がもっと社会にあればいいのと思った
- ・ 避難障がいについて理解のある専門家がもっといたらいいと思った
- ・ 保護者の負担が大きく、知識のある人に子どもをまわすられるレスパイト・ケア(一休みさせてもらうケア)がほしいと思った
- ・ 子どもに対する誤解から、対人トラブルが生じてしまうことがあった

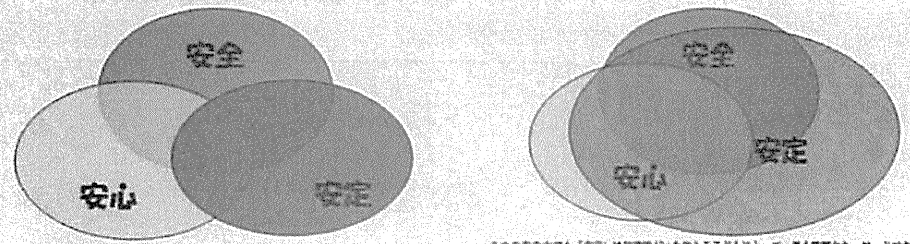
いくつかの資料②

3つの心のケア

アプリに添付されている資料です

災害時に、子どもに必要な支援とは？

発達障がいを抱える子どもに必要なケア



3つの交点で「安定」は発達障がいを抱える子どもにとって、最も重要なキーワードです

安全 Safety 危険に備え、安全を高めよう	安心 Security 安心感の提供を重視しよう	安定 Stability 日常生活を重視しよう
-----------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

- ・ 危険から子どもを遠ざけよう。
- ・ 危険は去ったことを伝えよう。「もう大丈夫」といえない状況であれば、少しでも危険から子どもを遠ざけよう。
- ・ テレビのつけっぱなしや、大人の会話にも気を付けよう。子どもは、危険をテレビ画面や大人の会話からも感じることがある。
- ・ 子どもの体をチェックしよう。興奮しているや体の不調や怪我に気づきにくいことがある。
- ・ 災害への心構えや防災の準備をしておく。いざというときの安全性を高めてくれる

- ・ 子どものそばにできるだけいよう。離しい時には、子どもが好きなものをそばに置くようにする。
- ・ どんな気持ちも表現していいし、否定されることがないことを伝えよう。感じていることを受容されることが大切だ。
- ・ 子どもが好む方法で子どもと会話しよう。絵やサインを使ってもいい。
- ・ 災害後に生じる特有の心身の反応は決して異常なことではないと伝えよう。
- ・ 誤った思考は非難せずに修正できるよう手伝おう。
- ・ できるだけ穏やかな声で話しかけよう
- ・ できることはさせよう。感謝の言葉をかけることは大切だ。

- ・ 子どもに次に何をするか、わかる範囲で説明していいところ。情報は見えやすいところに掲示する。
- ・ 日常生活で行っていた習慣はできる範囲で取り戻そう。離しい時には、新しい習慣を作って行うようにする。
- ・ 主体的に行動を選択したり、判断したりする機会を提供しよう。
- ・ ～するな、という禁止言葉でなく、～しようという肯定的な言葉を使おう。
- ・ あいている時間にできるよりに、電池や電気がなくてもやれる遊びを日ごろから見つけておこう。
- ・ 一人であいたがっても「ひとり」と「みんな」との時間や空間を作るようにしよう。バランスが大切になる。

- ・障がいをもっていようがいまいが、私たちには、自分で自分を「まもる力」があります。自分のことに気づき、自分について他者と共有することが、そうした「まもる力」の出現をより助けてくれます。
- ・このリュックが「まもる力」を助けてくれるのを願っています。

関連情報

「自分をまもるカード」(前川 2011)

<http://homepage3.nifty.com/mayekawa/asami/>

iPad版「まもるリュック」(前川ら)

<http://www.wasa.or.jp>

アップルストアで日本語版、英語版ともに無料ダウンロード
できます。

この冊子のPDFなど障害のある人のための防災教材と研究成果

<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamuravayoi.htm>

iPad版防災アプリ「まもるリュック」解説書

平成27年3月14日 第1版

著者：前川あさ美 (東京女子大学)

デザイン・アプリケーション作成：小笠原たけし、坪沼まり、川口香妻 (女子美術大学)

発行人：厚生労働科学研究費補助金事業

「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」

研究代表者：北村弥生 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」
平成 24～26 年度 分担研究総合報告書

防災における障害の主流化

一第 3 回国連防災世界会議における「好事例」の意義一

河村 宏 特定非営利活動法人 支援技術開発機構
北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

研究要旨

障害者権利条約第 11 条は最も実施が遅れている条文の一つと言われてきたが、2015 年 3 月に第 3 回国連防災世界会議で採択された 2030 年までの 15 年間の国際防災戦略である「仙台防災枠組 2015-2030」では、防災における障害者の積極的な役割について「特にユニバーサルデザインの原則を考慮した場合、障害のある人とその組織は、災害リスクの評価と、個別の必要性に応じた計画の策定および実施に極めて重要であるⁱⁱ⁾」（公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会情報センター訳）と述べていることが特に注目される。本稿では、災害時要援護者支援に関する国際比較研究の一環として、第 3 回国連防災世界会議で、特に「好事例」が防災における障害の主流化にどのようなインパクトを与えたのかを考察する。

A. 研究目的

多くの人命が失われる大規模災害において、発災直後の適切な避難行動は、最も有効な防災対策である。浦河町を拠点としてその有効性が検証された、「障害者自身が適切な避難行動に関する知識を持ち近隣住民と共に避難訓練に参加して地域の防災力の強化に参加する」という防災戦略と、それを実現するために有効な障害者への支援方策とを、第 3 回国連防災世界会議の一連のプロセスを活用してグローバルに共有することを目的とする研究を実施した。

B. 方法

1. 仙台会議（2014）とそのフォローアップ

2014 年 4 月に仙台で開催した国連 ESCAP、リハビリテーション・インターナショナル（RI）、日本財団共催の「障害者も参加する防災アジア太平洋会議（仙台会議）：知識を通じて固定観念を変えようⁱⁱⁱ⁾」の企画立案とアクセス支援も含めた実施に、河村がプロジェクト・マネージャーとして積極的に参加して、浦河等の障害者が積極的な役割を持って地域の防災力強化に貢献する「好事例」を、東日本大震災において

平均の2倍以上の死亡率である差別的な状況と共に確認した。

この仙台会議では、ESCAP 域内の政府専門家と障害者団体の代表者、および防災と障害者支援のそれぞれの専門家が一堂に会して議論を深めた。当研究班が関与する浦河べてるの家を中心に進められている北海道浦河町での防災活動の成果も発表され、東日本大震災の際には、精神障害を抱える浦河ベテルの家のメンバーが率先避難者として地域住民の避難に貢献した事例に高い評価が与えられた。

「障害インクルーシブな防災はすべての地域住民の安全に資する」と主張する仙台会議の成果文書^{iv}は、第7回障害者権利条約締約国会議および DESA Forum on Disability and Development: Roundtable Discussion on Disability-Inclusive Disaster Risk Reduction and Resilience (ニューヨーク)、第6回アジア防災閣僚会議 (バンコク)、および第3回国連防災世界会議の一連の準備会合に紹介された。

2. Major Groups 問題

国連総会は2005年に神戸で開催した第2回国連防災世界会議で合意された国際防災戦略である「災害に強い国・コミュニティの構築：兵庫行動枠組 2005-2015」の総括と、次の国際防災戦略を策定するための第3回国連防災世界会議を2015年3月に仙台で開催することを決議し、特に女性と障害者の視点での取り組みに言及した。

2015年7月にジュネーブで開催された第1回準備会合には、障害とアクセシビリティ国連特使の出席があり、防災会議を主催する ISDR (国連防災戦略) の依頼で同特

使に対する障害者団体によるブリーフィングの場は設けられたものの、肝心の **organizing partner** は、従来からの9カテゴリーの **Major Groups**^vの代表者だけで構成されており、障害者団体として参加する枠組みにはなっていないことが明らかになった。

これでは障害の視点を国際防災戦略に反映することは不可能なため、河村は第一回準備会合に参加した障害者団体に呼び掛けて、**organizing partners** に障害者グループの代表を入れるよう提言した。正式に国際障害者同盟 (International Disability Alliance) 議長が関係者一同に申し入れたこの提案は、第3回国連防災世界会議を障害者にも参加できるようにするための日本財団の ISDR への助成金の提供と相まって、最終的に ISDR に受け入れられた。その結果、第2回準備会合以後は、多くの障害者の参加を保障するために **Major Groups** に加えて、障害グループ (Disability Group) 代表を **working partners** に加えることになり、河村は4名の障害グループ代表の一人として、第3回国連防災世界会議の運営に関与する機会を得た。

3. 第3回国連防災世界会議

仙台市で開催された第3回国連防災世界会議は正式登録が必要な本体会議参加者6500名以上、関連イベント400余、延べ参加者数が十万人以上という極めて大きな国際イベントとなり、防災に関する国際的な関心の高まりを示した。

200人と言われる障害に関わる登録参加者の最大の貢献は、「ユニバーサルデザインの原則を考慮した場合、障害のある人とそ

の組織は、災害リスクの評価と、個別の必要性に応じた計画の策定および実施に極めて重要である」という成果文書「仙台防災枠組 2015-2030」の一節に集約される。

この一節は、次の二つの意味で、重要である。

第一に、ここでは防災が誰一人取り残すことのないユニバーサルデザインを原則とすることが確認されている。これは障害者だけでなく、高齢者や乳幼児、外国人等々のあらゆる要件を考慮して、すべての人の災害時の安全をはかることを原則にしている。

第二に、そのような防災のユニバーサルデザインを進める上で、様々な個別のニーズを持ちその解決に取り組む障害のある人とその組織が、大きな役割を果たすことを期待されている

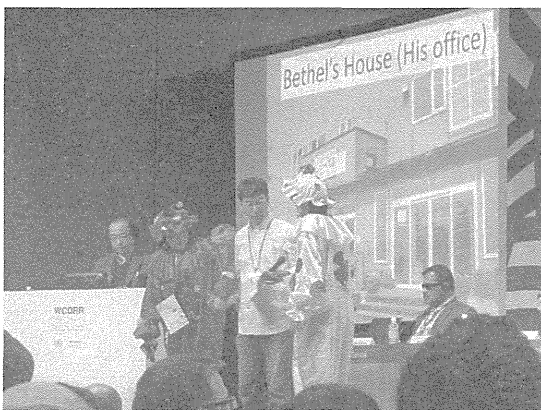


図1 浦河べてるの家によるロールプレイ。「この地震はあなたが起こしたもなので、逃げてはいけません」という幻聴さん二人の間のメンバーが「幻聴さんも一緒に逃げよう」と一緒に逃げる。

障害者権利条約は繰り返しユニバーサルデザインの推進を説いているが、防災にふれた第 11 条では必ずしもそれが鮮明ではなかった。しかし、この成果文書でその点が、障害者の視点の積極的な役割と共に明

確にされたと言える。

4. 好事例の役割

「仙台防災枠組 2015-2030」が決まるまでのグローバルな防災の議論で常に言われていたことが、「何がうまく働いたか？（好事例）」と「それはどうすれば他所でも実現できるのか？」ということだった。

もちろん、被害のデータ、特に東日本大震災で初めて明らかになった大規模災害時に障害者と高齢者に犠牲者が多かった点も注目を集めたが、それは必ず、より災害に強い社会を目指す復興に向けての質問を伴った。

浦河町の浦河べてるの家、東町自治会、浦河町役場が地域で実践してきた防災の取り組みが、好事例として国際的に高い評価を受け、障害者の防災における積極的な役割をテーマとする公式セッションの発表に選ばれたのは、次のような理由だった。

第一に、地域に暮らす精神障害を抱える人々の防災の取り組みであることが高く評価された。精神障害に対する偏見によって孤立しがちであることによる災害時の脆弱性が広く知られる精神障害者が、地域の人々と防災に共に取り組むことによって、東北大震災時の津波襲来の際に訓練通りの整然とした避難を行って、地域の防災資源であることを劇的な形で証明した事実がまず注目されたのである。

第二に、浦河べてるの家の防災のとりくみが、従来より浦河べてるの家が培ってきた精神障害者の地域に根ざしたリハビリテーションと、当時国立障害者リハビリテーションセンター研究所、浦河町、東町自治会等によって共同で始まった地域防災プロ

プロジェクトの成果であって、これまでの取り組みのプロセスを明らかにして、「どうやってこれができるのか」を客観的に示せるものであることも評価された。

第三に、わかりやすさを工夫したメッセージの伝え方である。浦河の防災の取り組みでは常に DAISY 規格のマルチメディアを応用しており、浦河べてるの家でもそれを活用して、自分たちが登場する手作りの防災マニュアルで成果を挙げてきた。2014年の仙台会議の際にも用いた台本に基づいたロールプレイによる動きとセリフ、背景写真と音楽を組み合わせ、集中が持続する短時間の間で重要なメッセージを伝える手法が支持を受けた。

C. 結論

防災の目標は、誰一人取り残すことのない安全の保障である。その実現のためには、

一人一人がリスクを理解し、それに対処する方法を理解していることが前提になる。

防災知識は、それを理解するだけでなく、必要な時に記憶の引き出しからそれを取り出して行動に活かして初めて役に立つ。

仙台防災枠組は、防災のユニバーサルデザイン化という高い目標を設定し、その中で障害者とその支援者とが大きな役割を果たすように呼びかけている。

研究の当初の目標である浦河町で得られた研究成果をグローバルに共有するという目的は十分に達せられたと言ってもよいが、仙台防災枠組は、その上で達成すべき新たな課題として、「誰もが理解し行動に活かせる防災知識の共有の方法」の開発と普及を提示している。

これは、浦河における実践的な共同研究の次のテーマである。

i ZERO Project Report 2014, p26, 80

ii

http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/world/2015dp/wcdrr_indexjp/wcdrr_sendai_framework_dp_jp.html

iii 日本語サイト＝

<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/bf/sendaprogram140422.html>

英語サイト＝

<http://www.unescapsdd.org/events/asia-pacific-meeting-disability-inclusive-disaster-risk-reduction>

iv Sendai Statement to Promote Disability-inclusive Disaster Risk Reduction for Resilient, Inclusive and Equitable Societies in Asia and the Pacific

(http://www.unescapsdd.org/files/documents/DiDRR_Outcome-document.pdf)

v 1992年の地球サミットで採択したアジェンダ 21 で決めた市民社会グループの以下の9つのカテゴリーを Major Groups と呼ぶ：女性 (Women)、子ども・若者 (Children and Youth)、先住民族 (Indigenous People and their communities)、非政府機関

(Non-Governmental Organizations, NGOs)、地方自治体 (Local Authorities) 労働者・労働組合 (Workers and Trade Unions)、産業界 (Business and Industry)、科学・技術者 (Scientific and Technological communities)、農民 (Farmers) (典拠：

<http://www.geoc.jp/rio20/movement>)

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表
書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
前川あさ美	「命を守るために」準備編①.	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ		東京	2012	p. 6
矢守克也・前川あさ美	序章 災害・危機と人間	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻 「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	1-5
前川あさ美	第1章 臨床・発達から見た災害・危機.	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻 「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	6-17
菅野恵・前川あさ美	第9章 子どもの虐待という危機	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻 「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	99-111
前川あさ美	第25章 乳幼児の事例 ト라우マを経験した幼児の事例	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻 「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	246-249
前川あさ美	リーフレット	厚生労働科学研究	災害と発達しょうがい	研文社	埼玉	2013	pp. 16
北村弥生	マルチメディアデイジー版「2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ」	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ	(電子図書) 国リハHPより公開	埼玉	2013	pp. 46

北村弥生	マルチメディアデ イジー本人版 「2011・3・11 東日 本大震災を受けて 自閉症の人たちの ための防災・支援ハ ンドブック 自閉 症のあなたと家族 の方へ」	日本自閉症 協会	2011・3・11 東日 本大震災を受け て 自閉症の人 たちのための防 災・支援ハンド ブック 自閉症 のあなたと家族 の方へ	(電子図 書) 国リハ HP より公 開	埼玉	2013	pp. 19
北村弥生	マルチメディアデ イジー英語版 「2011・3・11 東日 本大震災を受けて 自閉症の人たちの ための防災・支援ハ ンドブック 自閉 症のあなたと家族 の方へ」	日本自閉症 協会	2011・3・11 東日 本大震災を受け て 自閉症の人 たちのための防 災・支援ハンド ブック 自閉症 のあなたと家族 の方へ	(電子図 書) 国リハ HP より公 開	埼玉	2013	pp. 46
北村弥生	マルチメディアデ イジー英語本人版 「2011・3・11 東日 本大震災を受けて 自閉症の人たちの ための防災・支援ハ ンドブック 自閉 症のあなたと家族 の方へ」	日本自閉症 協会	2011・3・11 東日 本大震災を受け て 自閉症の人 たちのための防 災・支援ハンド ブック 自閉症 のあなたと家族 の方へ	(電子図 書) 国リハ HP より公 開	埼玉	2013	pp. **

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
前川あさ美	東日本大震災と発達障害	東京女子大 学心理臨床 センター紀 要	3号	51-66	2012
北村弥生	障害者の防災対策とまちづくりに 関する研究.	いとしご(日 本自閉症協 会会報)	137	12	2012
阿部叔子、 白井和子、 北村弥生	「自閉症のひとたちのための防災 ハンドブック」の編纂と東日本大震 災における活用	国リハ紀要	32	27-34	2012
河村宏	防災・復興と電子出版	出版ニュー ス	3月下旬 号		2014

猪狩恵美 子・高木尚・ 平賀哲・福田 智佳子	東日本大震災発生に伴う訪問学級 児童生徒の被災状況と求められる 支援に関する研究.	特殊教育学 研究	51 (2)	176-180	
猪狩恵美 子・高木尚・ 平賀哲・福田 智佳子	東日本大震災発生時の訪問学級児 童生徒の被災状況と求められる支 援.	訪問教育研 究	25	85-89	
北村弥生・本 多康生・我津 賢之・小佐々 典靖・海野耕 太郎	東日本大震災の被災地における災 害時要援護者支援― 宮城県南三 陸町を中心とした調査結果	国リハ紀要	35号	19-28	2014
北村弥生・河 村宏・我津賢 之・小佐々典 靖・八巻知香 子	精神障害者による津波避難訓練の 効果と地域住民との関係	国リハ紀要	35号	29-40	2014
北村弥生・広 瀬秀行	脊髄損傷者に対する避難所におけ る褥瘡予防プログラムの開発と評 価: 接触圧の観点から	国リハ紀要	36号	印刷中	
北村弥生、入 部寛	政府関係機関文書における福祉避 難所についての記載内容について ～障害者関係を中心に～	国リハ紀	36号	印刷中	

口頭発表

発表者氏名	タイトル名	学会名等	年月日	場所
北村弥生	一人ぼっちをつくらない	新所沢地域福祉協議会	2012-10-01	埼玉
Kitamura, Y., Abe, Y., Shirai, K. Kawamura, H	Compilation of “ Disaster Prevention Handbook for People with Autism” and its Use in the Great East Japan Earthquake	Rehabilitation International	2012-10-31	Inchon, Korea
北村弥生	災害時要援護者支援について	所沢市ボランティア福祉協議会	2013-01-16	埼玉
Kitamura, Y	Good practices of disaster preparedness for persons with disabilities	Japan-U.S. workshop of the support of persons with disabilities in case of disasters	2013-03-11	Washington D. C., U. S. A.
北村弥生, 白神 晃子	地域における障害者の災 害準備と意識	日本保健医療社 会学会	2013-5-18/19	埼玉
前川あさ美	子どもの心的外傷・PTSD 症状と対応のポイント	横浜リハビリテ ーションセンタ ー	2012-11-08	横浜
前川あさ美	発達障害への理解と支援	京都教育大学	2012-12-15	京都
前川あさ美	発達障害と震災	宮城県仙台市発 達障害支援セン ター「えくぼ」	2013-02-27 2013-03-10	宮城

前川あさ美、深井敏行、野末武義	震災後の社会における子どもの発達と支援「震災体験と子どもの発達支援」	日本発達心理学会大会	2013-03-16	名古屋
Kawamura, H	Accessibility and Technologies	High-level Meeting of the General Assembly of Disability and Development	2012-09-12	New York, U. S. A.
Kawamura, H	Technologies for disaster preparedness by persons with disabilities	Japan-U. S. workshop of the support of persons with disabilities in case of disasters	2013-03-11	Washington D. C., U. S. A.
細川淳嗣、深津玲子、斗内沢邦男、東江浩美、鈴木繭子、北村弥生	大災害時における特別な支援ニーズを持った被災者に対する情報提供に関するプロジェクト	東日本大震災ビッグデータワークショップ Project 311 報告会	2012-10-28	東京
細川淳嗣、深津玲子、斗内沢邦男、東江浩美、鈴木繭子、北村弥生	大規模災害時における特別な支援ニーズを持つ人への情報提供のあり方の検討	情報処理学会	2013-3-8	宮城
東江浩美	災害時の発達障害児・者支援	平成24年度第1回発達障害者支援センター職員研修会	2012-05-14	東京
東江浩美、鈴木さとみ、金樹英	学校の災害時対応における発達障害児・者支援に求められること	東京都立桐ヶ丘高校前期校内研修会	2012-05-31	東京
東江浩美、鈴木繭子	災害時の発達障害児・者支援について	埼玉県発達障害児・者災害支援	2013-01-28	埼玉

		研修会		
東江浩美	災害時支援について.	発達障害者支援 関係報告会	2013-03-01	東京
北村弥生, 白神 晃子	地域における障害者の災 害準備と意識	日本保健医療社 会学会	2013-5-18/19	埼玉
北村弥生	災害時要援護者支援	埼玉県所沢市民 生委員福祉部会	2013-07-22	埼玉
北村弥生、高橋 競	災害時要援護者支援と排 泄	埼玉県所沢市地 域防災訓練	2013-08-31	埼玉
北村弥生、高橋 競	災害時要援護者支援と排 泄	新所沢 UR い きいきサロン	2013-09-18	埼玉
北村弥生	災害時要援護者支援	埼玉県所沢市山 口地区民生委員 福祉部会	2013-10-19	埼玉
北村弥生	東日本大震災前後の南関 東の盲ろう者による情報 入手量の変化	日本災害情報学 会	2013-10	群馬
北村弥生	盲ろう者に対する宿泊施 設での平日夜間支援の効 果	日本心理学会と	2013-09-11	神奈川
北村弥生、我沢 賢之、小佐々典 靖、河村宏	北海道浦河郡浦河町の社 会福祉法人による災害時 要援護者支援先進例と課 題	日本障害学会	2013-10	東京
福田暁子、北村 弥生	呼吸器利用・電動車いす利 用で単身生活を行う盲ろ う者の自助による災害時 対策	日本障害学会	2013-10	
北村弥生、本多 康生、小佐々典 靖、我沢賢之、 東修司	宮城県南三陸町における 災害時要援護者支援体制 と東日本大震災での経験	Pacific Rim International Conference on Disability and DIversity	2014-05-19	米国ハワイ 州 (ホノル ル)

前川あさ美	子どもの心の SOS への支援.	宮城県気仙沼市 特別支援教育コーディネーター 連絡協議会(宮城県発達障害拠点事業)	2013-08	宮城
前川あさ美	傷ついた子どもの心の支援	東京都昭和女子 大学初等教育学科 特殊研究講座	2013-09	東京
前川あさ美	相談・面接技術研修.	岩手県障害者地域生活支援事業 連絡協議会	2013-10	岩手
前川あさ美	発達に課題がある子どもへの対応—理解と支援の視点—	東京都小金井市立小金井第二小学校生活指導全体会	2013-10	東京
前川あさ美	相談・面接技術研	岩手県障害者地域生活支援事業 連絡協議会	2013-12	岩手
前川あさ美	発達障害と震災	宮城県石巻市通所施設「かもめ園」	2014-03-10	宮城
<u>Kawamura, H.</u>	Lessons learned from March 11, 2011	Japan-U. S. workshop of the support of persons with disabilities in case of disasters	2013-09-24	Washington D. C., USA.
Kawamura, H. Hamada, M.	Accessibility requirements of tsunami evacuation manuals.	NAPSIPAG' s 10 th International Conference/	2013-10.	New Delhi, India,

		Workshop,		
Kitamura Y, Honda Y	The experiences of support for persons with special needs in the area affected by the Great East Japan Earthquake: Cases in Minami-Sanriku, Miyagi Prefecture.	Pacific Rim Conference on Disability and Diversity.	2014. 5. 19-20.	Hawaii
<u>Mayekawa, A.</u>	Disaster and Developmental Disabilities.	Pacific Rim Conference on Disability and Diversity	2014. 5. 21-22.	Hawaii
<u>Kitamura, Y.,</u> <u>Maekawa, A.,</u> <u>Fukatsu, R.,</u> Agarie, H., Suzuki, M., Fukuda, A. Gorie, Y., and <u>Kawamura, H.</u>	Development and Dissemination of Disaster Preparedness Manuals and Drills for Persons with Disabilities.	The Tokyo Conference on International Study for Disaster Risk Reduction and Resilience.	2015. 1. 14-16.	東京
<u>Kitamura, Y.,</u> <u>Maekawa, A.,</u> <u>Fukatsu, R.,</u> <u>Ikari, E.,</u> and <u>Kawamura, H.</u>	Development and Dissemination of Disaster Preparedness Manuals and Drills for Persons with Disabilities.	World Congress on Disaster Reduction.	2015. 03. 14-19.	宮城
<u>北村弥生</u> , 村島 完治, 東江浩 美, 鈴木繭子, <u>深津玲子</u>	マルチメディアデイジー 版防災教材の作成と評価.	日本デジタル教科書学会 2014 年度次大会新潟. 新潟.	2014-08-16/08-17.	新潟
<u>北村弥生</u>	発達障害の人の防災実践 ハンドブックの開発	日本発達障害学会第 49 回研究 大会	2014-08-23/08-24.	宮城

北村弥生	聴覚障害者による災害に対する事前準備と意識	日本心理学会第78回大会	2014-09-10.	京都
北村弥生	地域防災訓練における聴覚障害者への筆記と掲示の有効性と課題	日本災害情報学会 日本災害復興学会	2014-10-23.	新潟
北村弥生	地域防災訓練への車いす利用者の参加	日本社会福祉学会 第62回秋季大会	2014-11-29.	東京
チームなみき 8、荒幡自主防災会、新所沢東部地区自治連合会、バンダナ作成委員会、緑町けやきの会、よつばくらぶ、所沢マルチメディアデイズ、ふれあい、北村弥生	所沢市における障害者の防災対策活動	障害者週間展示	2014. 12. 3-9.	埼玉
前川あさ美、北村弥生	iPad版「守るカード」ワークショップ	石巻市役所	2015-01-23.	宮城
前川あさ美	自分を「知る」こと、自分を「伝える」こと、自分を「守る」こと	日本発達心理学会	2015-03-21.	
北村弥生	地域防災訓練の活用	日本発達心理学会	2015-03-21.	
猪狩恵美子	訪問学級の全国状況	福岡市訪問教育研究会	2013-11-14.	福岡
猪狩恵美子	訪問教育における課題と方向性	大分県教育センター主催訪問担当者研修会	2013-11-15.	大分
猪狩恵美子	特別支援学校訪問学級における防災対策と地域～訪問学級保護者調査より～	第12回日本教育保健学会	2015-3-21	愛知